

### 市町村史の災害記録を読んで

四国災害アーカイブスで収集している資料は、1)市町村史、郷土史、2)災害記録、災害体験集、3)学術論文、雑誌論文、4)事業誌、5)写真集、6)その他文献等に分類することができます。このうち、市町村史や郷土史は、地域で起こった過去の災害に関する情報を網羅的に提供してくれますので、情報量という点でアーカイブスの中心的な資料と言えます。資料整理はまだ途中段階ですが、これまで市町村史に記述されている災害に関する情報を整理していて、感じたことを記します。

アーカイブスの重要な情報源として市町村史を活用していながら書きにくいことですが、市町村史の中には整理しにくいものもあります。例えば、ある災害に関する記述があちこちのページに分散しているもの、記述内容が当該市町村のことなのか他の市町村や県全体のことなのか不明なもの、被害状況を示す数字に単位が記載されていないため判断に迷うもの、記述の元になっている資料の出典が示されていないため記述内容が確認できないもの、誇張表現や叙情的な表現が多くどこまでが事実なのか不明なもの、などです。市町村史に記述されている情報はアーカイブスに保存することを基本としていますが、同時に事実を伝えることも重視していますので、他の資料などと照らし合わせたり、地図で地名を確認するなど、できるだけ情報を確認しながら整理しているところです。

一方、いつ、どこで、どんな災害が起こって、誰が、どうしたのかなどが的確に記述されている市町村史の場合には整理しやすいです。アーカイブスでは、地域で起こった過去の一つ一つの災害について、災害の状況、被害の様子、地域の人々の対応等を200字以内程度に概要として整理していますが、原文を生かすことを基本にしていますので、的確に記述されている市町村史であれば要領よく整理することができます。災害ごとに記述されている情報量が多い市町村史の場合には、整理に時間を要しますが、それでもきちんと整理された内容を読むことは楽しみでもあり、学ぶことができますので、むしろ喜びです。

また、市町村史の中には、執筆者の熱意が感じられるものもあります。県の災害史や周辺の郷土史からの転載や引用が大半を占めているものには熱意を感じませんが、当該地域の災害に関する史料などを丹念に調べ上げたり、被災者や救援者などに対して聞き取り調査を行ったり、現地調査で災害現場の状況を調べたり、痕跡などの写真撮影を行ったり、記述内容を分かりやすくするために地図を作成するなどの配慮をしているものに出会うと嬉しくなります。こうした手間をかけることによって、過去の災害の情報であっても、臨場感が感じられ、具体的な状況を目に浮かべることができるようになると思います。

執筆者の地域への思いが感じられる市町村史もあります。例えば、災害に関する情報の内容が、災害の状況や被害の様子などにとどまらずに、それぞれの災害から何を学ぶことができるのか、地域の課題は何なのか、今後災害に対して何をすべきかなどにまで踏み込んで記述しているものです。市町村史の役割は過去の歴史を整理することによって、今後どうするかは政策を担う行政が考えるべきことであるとの考え方もありますが、一歩踏み込んだ記述には同じ災害を繰り返さないようにという執筆者の思いが感じられます。

アーカイブス事務局としても、四国の地域防災力の向上に向けて、熱意と思いを込めてアーカイブスの資料整理を行っていきたいと思っています。